



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月6日
上場取引所 東

上場会社名 生化学工業株式会社
コード番号 4548 URL <https://www.seikagaku.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 水谷 建
問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 杉山 大輔 TEL 03-5220-8950
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無： 有
決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切り捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績(2025年4月1日～2025年12月31日)

(1)連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	26,934	△11.5	△636	—	1,570	△57.7	1,119	△63.8
2025年3月期第3四半期	30,445	11.2	3,057	31.3	3,711	21.7	3,088	14.4

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 1,449百万円 (△54.4%) 2025年3月期第3四半期 3,179百万円 (△46.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	20.50	—
2025年3月期第3四半期	56.60	—

(2)連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	82,984	73,014	88.0
2025年3月期	83,872	73,187	87.3

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 73,014百万円 2025年3月期 73,187百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	15.00	—	15.00	30.00
2026年3月期	—	15.00	—		
2026年3月期(予想)				15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	36,400	△7.6	△1,100	—	1,050	△45.7	900	△25.9	16.48

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、『添付資料』P.8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年3月期3Q	56,814,093株	2025年3月期	56,814,093株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	2,211,251株	2025年3月期	2,236,456株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年3月期3Q	54,593,148株	2025年3月期3Q	54,570,999株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

上記予想は、本資料の発表日現在において想定できる経済情勢、市場動向などを前提として作成したものであり、今後様々な要因により、予想と異なる結果となる可能性があります。

(決算補足説明資料の入手方法について)

決算補足説明資料は、2026年2月6日より当社ウェブサイトに掲載しています。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(4) 研究開発活動	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間（2025年4月1日～2025年12月31日）の売上高は、国内医薬品の増加があったものの、ロイヤリティーの大幅な減少に加え、海外医薬品の減少も重なり、前年同期と比べ11.5%減の26,934百万円となりました。

減収により、営業損失は636百万円、投資有価証券の売却等により、経常利益は57.7%減の1,570百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は63.8%減の1,119百万円となりました。

セグメント別の売上概況

<医薬品事業>

当社は医薬品の販売部門を持たず、それぞれの製品領域で強みを持つ国内外の企業と提携し、販売を委託することで、経営資源を研究開発や製造へ集中するビジネスモデルを展開しています。また、医薬品事業に関連するロイヤリティーは、研究開発や販売の進捗に応じて受領するマイルストーン型がメインとなっています。

・国内医薬品（9,021百万円、前年同期比4.9%増）

関節機能改善剤の市場は、国内の高齢者人口の増加に伴い患者数は増加傾向にあるものの、注射剤以外の外用薬や内服薬の処方拡大により数量ベースでは微減となっています。一方、眼科手術補助剤の市場は、高齢者人口の増加に伴って数量ベースでは成長基調にあります。このような状況の中、関節機能改善剤アルツと眼科手術補助剤オベガン類は、それぞれの市場においてトップシェアを維持しています。

これらの市場環境については、前四半期から大きな変化はありません。

当社売上高については、アルツの出荷タイミングによる増加により、前年同期比で4.9%の増収となりました。

・海外医薬品（6,420百万円、同17.3%減）

主力の米国及び中国の関節機能改善剤市場は、両国における高齢者人口の増加を背景に、市場は緩やかな拡大傾向にあります。一方、米国では政府の政策による医薬品業界への影響が不透明であることや、中国においても政府や省による集中購買制度が拡大しており、市場の動向を予測することが難しい状況となっています。

これらの市場環境については、前四半期から大きな変化はありません。

当社売上高については、米国向け関節機能改善剤スパルツFX及び中国向けアルツ等の減少により、前年同期比で17.3%の減収となりました。

減少要因について、5回投与製剤のスパルツFXは、出荷タイミングに加えて米国の関節機能改善剤市場における少数回投与製品（1～3回投与）への移行が影響していると推測しています。中国向けアルツは、出荷タイミングによるものです。

これらに加え、医薬品原体・医薬品受託製造（2,735百万円、同5.2%増）の増加、ロイヤリティー（1百万円、同99.9%減）の減少により、医薬品事業の売上高は18,179百万円（同15.7%減）となりました。

<LAL事業>

主に医薬品の製造工程における品質管理に使用されているエンドトキシン測定用試薬の市場は、カプトガニの血液を利用した従来製品や、脱動物由来原料により製造された遺伝子組換え製品も合わせ、安定した成長を見込んでいます。また、グルカン測定体外診断用医薬品の市場は米国を中心に伸長しており、今後も成長を見込んでいます。

これらの市場環境について、前四半期から大きな変化はありません。

当社売上高については、引き続き海外におけるエンドトキシン測定用試薬やグルカン測定体外診断用医薬品の販売は好調に推移したものの、前年同期と比較して円高となったことにより、8,754百万円（同1.4%減）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ888百万円減少の82,984百万円となりました。これは主に現金及び預金の減少によるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ715百万円減少の9,970百万円となりました。これは主に未払金の減少によるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ172百万円減少の73,014百万円となりました。これは主に為替換算調整勘定及び利益剰余金の減少によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

昨今の業績動向を踏まえ、2025年5月13日に公表した2026年3月期の連結業績予想を修正しました。詳細につきましては、本日（2026年2月6日）開示した「2026年3月期通期連結業績予想の修正及び通期個別業績予想の公表に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、通期業績予想については、開示日時点において想定できる経済情勢、市場動向などを前提として作成したものであり、今後様々な要因により、予想と異なる結果となる可能性があります。

(4) 研究開発活動

当社グループは、世界の人々の健康で心豊かな生活に貢献するために、専門分野とする糖質科学に特化して、独創的な医薬品等の創製を目指しています。

当社が保有する糖質科学に関する基盤技術を応用展開し、既存領域における新規開発テーマや新規疾患領域を含む革新的な研究テーマの創出に注力するとともに、各種アライアンスを推進することで、今後の事業成長の鍵を握る新薬の早期かつ継続的な上市の実現を図っていきます。

当第3四半期連結累計期間における研究開発費の総額は4,669百万円、対売上高比率（ロイヤリティー除く）は17.3%となりました。

研究開発活動の主な進捗状況は以下のとおりです。

・Gel-One（変形性関節症治療剤〈膝・股関節〉、開発地域：日本）

当社独自の架橋技術を用いて創製した架橋ヒアルロン酸を有効成分とする関節注射剤です。膝関節腔内投与後、関節局所に長く残留することが確認されており、1回の投与で長期の疼痛抑制効果が期待されます。海外では2012年以降、「Gel-One[®]」（米国）や「HyLink[®]」（台湾、イタリア）として販売しています。

2025年2月より変形性膝関節症及び変形性股関節症を対象疾患とし、それぞれ第Ⅲ相臨床試験を開始しました。

また、2025年8月には、小野薬品工業株式会社と共同開発、販売提携について正式契約を締結しました。

・SI-449（癒着防止材、開発地域：日本）

2025年8月に医療機器製造販売承認の申請を行い、承認取得に向けた審査対応を進めています。

SI-449は、当社独自のグリコサミノグリカン架橋技術を用いて創製したコンドロイチン硫酸架橋体を主成分とする粉末状の医療機器です。水分を吸収し膨潤する特性を有しており、撒布後に手術創部と周辺組織の間でバリアとなることで、外科手術における術後癒着の防止効果が期待されます。

2023年7月に主要評価項目である術後癒着の有無及び副次評価項目である癒着の程度・範囲において、統計学的に有意な癒着防止効果を示す結果を取得しており、安全性についても顕在化した問題は認められませんでした。また、適用範囲の拡大を目的とした婦人科領域におけるパイロット試験においても、安全性と操作性に大きな問題は認められませんでした。本テーマは国内のみならず、グローバル展開を視野に入れて開発を進めていきます。

その他の研究開発活動については、重要な変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,132	7,766
受取手形	51	51
売掛金	7,192	9,970
有価証券	3,592	6,067
商品及び製品	3,398	3,361
仕掛品	3,893	4,071
原材料及び貯蔵品	2,906	3,216
その他	3,516	4,746
貸倒引当金	△53	△65
流動資産合計	39,631	39,186
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	22,183	22,517
減価償却累計額	△16,049	△16,320
建物及び構築物（純額）	6,133	6,197
機械装置及び運搬具	26,101	26,626
減価償却累計額	△22,042	△22,158
機械装置及び運搬具（純額）	4,058	4,467
土地	1,123	1,108
リース資産	144	131
減価償却累計額	△77	△79
リース資産（純額）	67	51
建設仮勘定	5,818	7,955
その他	6,564	6,689
減価償却累計額	△5,314	△5,473
その他（純額）	1,250	1,215
有形固定資産合計	18,452	20,996
無形固定資産		
のれん	1,965	1,774
その他	1,184	1,055
無形固定資産合計	3,149	2,830
投資その他の資産		
投資有価証券	19,038	16,163
退職給付に係る資産	2,296	2,351
その他	1,311	1,464
貸倒引当金	△7	△7
投資その他の資産合計	22,639	19,971
固定資産合計	44,241	43,798
資産合計	83,872	82,984

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	991	1,209
短期借入金	300	300
リース債務	33	29
未払金	3,729	2,923
未払法人税等	106	19
賞与引当金	829	405
環境対策引当金	108	—
その他	1,800	1,818
流動負債合計	7,899	6,705
固定負債		
リース債務	47	33
繰延税金負債	2,594	3,085
資産除去債務	38	38
その他	106	106
固定負債合計	2,786	3,265
負債合計	10,685	9,970
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,840	3,840
資本剰余金	5,301	5,301
利益剰余金	54,422	53,894
自己株式	△2,242	△2,217
株主資本合計	61,322	60,819
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,072	6,251
為替換算調整勘定	5,643	4,894
退職給付に係る調整累計額	1,148	1,047
その他の包括利益累計額合計	11,864	12,194
純資産合計	73,187	73,014
負債純資産合計	83,872	82,984

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	30,445	26,934
売上原価	14,736	15,702
売上総利益	15,709	11,232
販売費及び一般管理費		
人件費	2,798	2,687
賞与引当金繰入額	100	99
退職給付費用	72	81
研究開発費	5,187	4,669
その他	4,493	4,330
販売費及び一般管理費合計	12,651	11,868
営業利益又は営業損失(△)	3,057	△636
営業外収益		
受取利息	136	71
受取配当金	446	488
為替差益	—	275
投資有価証券売却益	189	1,261
環境対策引当金戻入額	—	74
その他	40	56
営業外収益合計	813	2,228
営業外費用		
支払利息	3	8
為替差損	136	—
支払手数料	3	3
固定資産除却損	16	4
租税公課	—	4
その他	0	1
営業外費用合計	159	21
経常利益	3,711	1,570
特別損失		
減損損失	—	169
特別損失合計	—	169
税金等調整前四半期純利益	3,711	1,400
法人税、住民税及び事業税	454	274
法人税等調整額	168	6
法人税等合計	622	280
四半期純利益	3,088	1,119
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,088	1,119

（四半期連結包括利益計算書）

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）
四半期純利益	3,088	1,119
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	145	1,179
為替換算調整勘定	58	△748
退職給付に係る調整額	△113	△100
その他の包括利益合計	90	329
四半期包括利益	3,179	1,449
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,179	1,449
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、見積実効税率に係る法人税等調整額は、法人税、住民税及び事業税に含まれております。

(セグメント情報等の注記)

I 前第3四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	医薬品	L A L	計		
売上高					
国内医薬品	8,601	—	8,601	—	8,601
海外医薬品	7,763	—	7,763	—	7,763
医薬品原体・医薬品受託製造	2,599	—	2,599	—	2,599
ロイヤリティ	2,598	—	2,598	—	2,598
L A L	—	8,883	8,883	—	8,883
顧客との契約から生じる収益	21,562	8,883	30,445	—	30,445
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	21,562	8,883	30,445	—	30,445
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	21,562	8,883	30,445	—	30,445
セグメント利益	2,204	852	3,057	—	3,057

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	医薬品	L A L	計		
売上高					
国内医薬品	9,021	—	9,021	—	9,021
海外医薬品	6,420	—	6,420	—	6,420
医薬品原体・医薬品受託製造	2,735	—	2,735	—	2,735
ロイヤリティー	1	—	1	—	1
L A L	—	8,754	8,754	—	8,754
顧客との契約から生じる収益	18,179	8,754	26,934	—	26,934
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	18,179	8,754	26,934	—	26,934
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	18,179	8,754	26,934	—	26,934
セグメント利益又は損失（△）	△1,209	573	△636	—	△636

(注) セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益又は営業損失（△）と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「医薬品」セグメントにおいて、当社グループは、製造体制の見直しを行った結果、建設中であった一部の製造設備について、当初の用途での利用が困難となったため、帳簿価額を回収可能額まで減額し、減損損失169百万円を特別損失として計上しました。回収可能価額については、売却や転用も見込めないことからゼロとしております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	1,343百万円	1,442百万円
のれんの償却額	145	138